研究課題　『江雲随筆』の研究資源化―近世初期日朝「境界」文書群―

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　米谷均（早稲田大学商学部・非常勤講師）

　所内共同研究者　鶴田啓・須田牧子・岡本真

　所外共同研究者　村井章介（東京大学名誉教授）・佐伯弘次（九州大学文学部・文学部長･人文科学府長）・臼井和樹（宮内庁書陵部図書課図書寮文庫・研究員）

研究の概要

（１）課題の概要

　東京大学史料編纂所所蔵謄写本『江雲随筆』は、近世初期の日朝関係史に関わる文書を多数収める文集で、田中健夫編『善隣国宝記　新訂続善隣国宝記』（集英社、1995年）で『続善隣国宝記』の校合に用いられただけでなく、研究代表者・共同研究者も論文でしばしば利用してきた。しかし未だ全文翻刻はなされておらず、史料的性格・成立・諸本系統といった基礎的事項も本格的に検討されてこなかった。本共同研究では、①諸本および関連諸史料の調査、②調査結果をふまえた本文校訂・所収文書の年代推定・人名比定などを行い、③『江雲随筆』の全文翻刻を行うものである。

（２）研究の成果

　2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限により、予定した調査・研究会等をすべて行うことができなかった。したがって現状は、2019年度実績報告書に記した状態（今後の計画については2020年度実施計画書に記した内容）にとどまっている。